

# 小学校社会科における「国際教育」の内容と特徴

—学習指導要領の内容構成と教科書記述の分析を中心に—

柳 準 相

## はじめに

本研究の目的は、2017年に告示された学習指導要領（以下、新学習指導要領と記す）の小学校社会科における「国際教育」に当たる主な内容を中心に、その内容構成と教科書記述との関係に着目して特徴を明らかにすることである。

21世紀に入り、政治、経済、社会といった多方面において国や地域を越えた大規模な交流が一層活発になり、地球規模で統合されるグローバル化も急速に進展している。こうしたグローバル化の時代において日本の産業は、エネルギー資源や原料を輸入し、それらを加工して生産した工業製品を輸出するという、海外との貿易に頼って成り立っている。それに加えて日本社会は、少子高齢化の進行と共に、観光産業の活性化という国の政策を背景に、日本に在留・訪問する外国人が増えている<sup>1)</sup>。従って国際協力を通して全地球的な課題の解決に取り組み、自分とは異なる文化を持つ人々と共に生きる資質を育てる「国際教育」（以下、「」は省略）は、その重要度が次第に高まるだろう。

日本の学校教育における国際教育の推進について述べよう。その推進において大きな転機が訪れたのは、1990年代半ばである。当初、中央教育審議会答申で「国際理解教育」と記された国際教育の推進の背景には、1974年のユネスコ勧告や1985～87年の臨時教育審議会答申の影響があったとされる<sup>2)</sup>。その上、1995年に文部大臣は、中央教育審議会（以下、中教審と略記）に「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」諮問した。諮問文では、将来の日本社会が直面する国際化に重点を置き、国際社会において信頼される日本人、国際社会の中で活躍する人材の育成を重要課題として設定した。また、教育の在り方に関する基本的な検討事項の1つに、「(3) 国際化、情報化、科学技術の発展等社会の変化に対応する教育の在り方」を明記した<sup>3)</sup>。

文部大臣の諮問を受けた中教審では、1996年に第一次答申を出した<sup>4)</sup>。その中で第3部の「第2章 国際化と教育」では、国際化の進展に伴う教育の役割の重要性と、国際教育の充実を打ち出している。この答申で提示された国際教育に関する基本的な考え方は、2002年度に施行された小学校学習指導要領に反映され、今日に至るまで大きな影響を及ぼしている。

ところで、2005年に文部科学省（以下、文科省と略記）は、新たな情勢変化に対応するため、これまで分野毎に推進されてきた国際理解教育、海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育を総合的な観点から国際教育と呼ぶようになった。「国際化した社会において、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力の基礎を育成するための教育」<sup>5)</sup>と意味付けられた国際教育は、「国際関係や異文化を単に理解するだけでなく、自らが国際社会の一員としてどのように生きていくかという主体性を一層強く意識する必要」<sup>6)</sup>から編み出されたという。

本論文では、小学校社会科を検討対象としているため、文科省によって提起された国際教育という用語を用い、その考え方に基づいた分析を加える。

以上のような経緯を経て確立された日本の国際教育に関する研究は、理論と実践を跨ぎながら、多様な分野で行われている。学校教育との関係でいえば、各種の学校において「外国語」・「社会」などの教科又は「総合的な学習の時間」で実施されている。中でも、小学校社会科における国際教育の先行研究は、ある特定の分野やテーマを設定し、それを国際教育の視点から組み立てて実践したものが多い。例えば、世界遺産、歴史学習、多文化共生のような分野やテーマと結合した国際教育の実践が行われている<sup>7)</sup>。その他、学習指導要領における国際教育について論じた研究がある<sup>8)</sup>。

ただ、新学習指導要領の小学校社会科における国

国際教育に該当する内容構成と、それに対応する教科書記述を分析した研究は、管見の限り、見当たらない。よって本研究では、新学習指導要領の小学校社会科における国際教育の内容構成を抽出した上、教科書記述との関係に着目し、国際教育が有している特徴について解明する。

因みに小学校社会科の国際教育を取り上げる理由は、教科の目標として「グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」<sup>9)</sup>を育成するとしているからである。

利用する主たる資料は、文科省が作成した学習指導要領とその解説書及び検定に合格した社会科の教科書（全3種）である<sup>10)</sup>。本論の第1章では、新学習指導要領の社会科を中心に国際教育の内容構成について論じる。第2章から第4章では、新学習指導要領との関連に注目し、第3・4学年、第5学年、第6学年の社会科教科書における国際教育の記述とその特徴について分析する。

## 第1章 新学習指導要領における国際教育の内容構成

本章では、小学校学習指導要領の社会科における

国際教育の内容とは何かについて、その範囲を確かめた後、全体的な内容構成を論じる。

上述のように日本の学校教育において国際教育の推進に高い関心が寄せられたのは、1990年代中頃である。1996年に国際教育の充実を盛り込んだ中教審第一次答申が発表され、1998年には小・中・高等学校の学習指導要領が告示された。これら中教審第一次答申や1998年の小学校学習指導要領を検討することで、新学習指導要領における国際教育の内容についてヒントを得ることができる。

まず、1996年の中教審第一次答申では、国際教育の範囲について「国際理解教育は、各教科、道徳、特別活動などのいずれを問わず推進されるべきものであり…全教員が共通理解を持って取り組むことが重要である」<sup>11)</sup>としている。つまり、国際教育の推進は、特定の教科に限定されることなく、全教員が全学校教育を通して実行されるものと規定された。次に1998年に告示された小学校社会科における国際教育の範囲については、「学習指導要領における主な国際理解教育の取扱い 小学校学習指導要領(抜粋)」<sup>12)</sup>を通じて確認することができる。以下の【表1】は、この「抜粋」の中から「社会」に関わる国際教育の内容を抽出・整理したものである。

【表1】1998年告示の小学校社会科における国際教育の内容

学年	国際教育に関する内容の要点
3・4	(2)地域の人々の生産や販売：内容の取扱い(1)イのイ、外国ともかわりがある (6)県（都、道、府）の様子： ・エ、外国ともかわり・内容の取扱い(5)イのエ、我が国や外国には国旗がある
5	(1)我が国の農業や水産業：ア、食料の中には外国から輸入しているものがある 内容の取扱い(4)アのア、「国土の位置」の指導： ・我が国の領土と近隣の諸国 ・我が国や諸外国には国旗がある
6	(3)世界の中の日本の役割 ・ア、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子 ・イ、我が国の国際交流や国際協力…国際連合の働き ・内容の取扱い(3)アのア、我が国とつながりが深い国から数か国を取り上げる。その際、児童が1か国を選択して調べるよう配慮し、外国の文化を具体的に理解できるようにするとともに、我が国や諸外国の文化や伝統を尊重しようとする態度を養うこと。 ・内容の取扱い(3)イのイ、「国際交流」と「国際協力」 ・内容の取扱い(3)ウのイ、「国際連合の働き」 ・内容の取扱い(3)エ、ア及びイ「我が国の国旗と国歌の意義を理解させ…これを尊重する態度…諸外国の国旗と国歌も同様に尊重する態度を育てる。

以上のように国際教育の内容とは、次のように論じることができる。第3・4学年では、地域の人々の生産や販売・県の様子において、外国とも関わっ

ていることを教えることである。第5学年では、日本の農業や水産業において、外国から輸入する食料もあること、日本の領土と共に近隣諸国について

学習することである。第6学年では、世界の中の日本の役割において、日本と関係の深い国の人々の生活の様子や、国際交流・国際協力はもとより、国際連合の働きについても学ぶことである。最後に特記すべきことは、全学年に亘って国旗に関する教育が非常に重視されていることである。なお、国歌に関する教育は、第6学年の時に登場している。

このようにして小学校社会科における国際教育の骨子が固まるようになった。その後、2008年に告示された学習指導要領でも、【表1】に見られる国際教育の主な内容は引き継がれている。一方、新学習指導要領における国際教育の特質は、基本的に今までの内容を継承しながらも、「グローバル化への対応」をより図ろうとしたことである<sup>13)</sup>。そこで、社会科は「世界の国々との関わり」に関心を高める教育内容に改善・見直されたという<sup>14)</sup>。

その具体的な改善事項とは、大きく3つに分けて説明することができる。1つ目は、社会科における内容の枠組みや対象に関わる整理である。即ち、小学校の社会科は、中学校の社会科で学ぶ内容との関連を考慮し、①地理的環境と人々の生活（地域、日本、世界）、②歴史と人々の生活（地域、日本、世界）、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活（経済・産業、政治、国際関係）に整理された。中でも

地理・歴史の「世界」と現代社会の「国際関係」は、国際教育の内容と密接に関係している<sup>15)</sup>。

2つ目は、〔教科の目標〕や〔第6学年の目標〕がよりグローバル化を意識させる文章に書き替えられた。例えば、〔教科の目標〕は「国際社会に生きる」から「グローバル化する国際社会を主体的に生きる」へ、〔第6学年の目標〕は、「国際社会における我が国の役割を理解」から「グローバル化する国際社会における我が国の役割について理解」へと加筆された<sup>16)</sup>。

3つ目は、各学年における国際教育の内容として、次のような事項が追加された。〔第3学年の内容〕では「国際化」が、〔第4学年の内容〕では「国際交流に取り組んでいる地域」が加わった。また、〔第5学年の内容〕では、「貿易や運輸」が独立して示された。さらに、〔第6学年の内容〕では、「外国との関わりへの関心を高めるようにすることを重視して、内容の取扱いにおいて、『当時の世界との関わりにも目を向け、我が国の歴史を広い視野から捉えるよう配慮すること』」が書かれた<sup>17)</sup>。

以下の【表2】は、【表1】を基に新たに追加された内容を反映し、2017年告示の小学校社会科における主な国際教育の内容をまとめたものである。

【表2】2017年告示の小学校社会科における国際教育の内容<sup>18)</sup>

学年	小学校社会科の内容構成	国際教育の主な内容（要点）
3	1. 身近な地域や市区町村の様子 2. 地域に見られる生産や販売の仕事 3. 地域の安全を守る働き 4. 市の様子の移り変わり	・イ(イ)「外国との関わり」 ・内容の取扱い(4)ウ「国際化」
4	1. 都道府県の様子 2. 人々の健康や生活環境を支える事業 3. 自然災害から人々を守る活動 4. 県内の伝統や文化、先人の働き 5. 県内の特色ある地域の様子	・内容の取扱い(4)ア「国際交流に取り組む地域」
5	1. 我が国の国土の様子と国民生活 2. 我が国の農業や水産業における食料生活 3. 我が国の工業生産 4. 我が国の産業と情報との関わり 5. 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連	・イ(ア)「世界の大陸と主な海洋、世界の主な国々」 ・イ(ア)「輸入など外国との関わり」 ・イ(ウ)「貿易や運輸」
6	1. 我が国の政治の働き 2. 我が国の歴史上の主な事象 3. グローバル化する世界と日本の役割	・ア(サ)「国際社会での重要な役割」 ・内容の取扱い(2)オ「当時の世界との関わり」 ・イ(ア)「外国の人々の生活の様子」 ・イ(イ)「我が国の国際協力」

【表2】のように国際教育の主な内容は、10個の事項で構成されている。次章からは、これらの事項に基づき、各学年における国際教育の内容が教科書の中で、どのように記述されているかについて検討する。

## 第2章 第3・4学年の「地域社会」と国際教育の記述

本章では、第3・4学年の社会科学習指導要領における国際教育の内容と教科書記述との関係に着目し、その特徴を探りたい。

まず、第3・4学年の目標と内容について簡単に触れる。第3・4学年の目標は、自分たちの住んでいる「地域社会」（第3学年は市区町村、第4学年は都道府県）の学習を通して、児童に育成する「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学

びに向かう力、人間性等」を育てることである。次に第3・4学年の内容は、地域社会の社会的事象について、【表2】の「小学校社会科の内容構成」で見られる4項目・5項目から構成されている。

こうした内容構成から国際教育の内容は、次の3つである。1つ目は、第3学年の「2. 地域に見られる生産や販売の仕事」において「外国との関わり」を教えることである。2つ目は、第3学年の「4. 市の様子の移り変わり」で「国際化」について扱うことである。3つ目は、第4学年の「5. 県内の特色ある地域の様子」において「国際交流に取り組む地域」を学ぶことである。これらに対応する学習指導要領及び解説書における具体的な内容を示すと、【表3】の通りである。また、【表4】は各教科書における国際教育の記述に関する概要である。

【表3】第3・4学年における国際教育の内容<sup>19)</sup>

学年	国際教育の内容
3	<p>2. 内容：(2)地域に見られる生産や販売の仕事  イの(イ)消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目し…  ・他地域や外国との関わりに着目するとは、外国を含めた商品の産地や仕入れ先の名称と位置、  <u>買い物に来る客の居住地の範囲などについて調べること…</u></p> <p>3. 内容の取扱い：(4)内容の(4)については…ウ…「人口」を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考える…  ・…内容の(2)のイの(イ)において外国を取り上げる際、我が国や外国には国旗があることを理解させるとともに、それを尊重する態度を育てる…  ・「人口」を取り上げる際には…市によっては…外国人居住者が増え国際化が進んでいることなどに触れることも大切である。</p>
4	<p>3. 内容の取扱い：(4)内容の(5)について  ア. 県内の特色ある地域…国際交流に取り組んでいる地域…を取り上げること。  ・「<u>国際交流に取り組んでいる地域</u>」とは、姉妹都市提携などを結び外国の都市と様々な交流を行っている地域や、国際都市を目指して市内で外国との交流活動を盛んに行っている地域などを指している。…  イ. 国際交流に取り組んでいる地域を取り上げる際には、我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うように配慮すること。</p>

【表4】第3・4学年の社会科学教科書における国際教育の概要<sup>20)</sup>

学年	出版社	国際教育の概要
3	東京書籍	<p>2. はたらく人とわたしたちの暮らし  (1)農家の仕事：福岡県で生産されたあまおうが、海外へ送られる。  (1)工場の仕事：福岡県で生産されるおかしの原料は、外国からも輸入される。(例) 北米からのいんげん豆やこむぎこ。</p> <p>4. 市のうつりかわり→(1)市の様子と人々の暮らしのうつりかわり  ・兵庫県明石市における人口のうつりかわり：外国人住民の増加、体の不自由な人や外国から来た人が暮らしやすい街づくり。</p>

4	教育出版	<p>2. はたらく人とわたしたちの暮らし</p> <p>(1)店ではたらく人と仕事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国からの食材。(例) ブラジルのコーヒー豆、中国のたまねぎなど。</li> <li>・食品の産地と諸国の国旗：どの国の国旗も大切にされている。</li> </ul> <p>(2)工場ではたらく人と仕事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市の工場で作られるシュウマイと原料。(例) アメリカの小麦など。</li> <li>・港を中心に横浜市には、多くの外国人が住み、中華街もある。</li> </ul> <p>(2)農家の仕事：大韓民国などの外国からこまつなのたねを輸入。</p> <p>4. わたしたちの市の歩み→(2)市のうつりかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市における外国人人口の増加、外国人との交流。</li> </ul>
	日本文教出版	<p>2. わたしたちの暮らしとまちではたらく人びと</p> <p>(1)工場ではたらく人びとの仕事：姫路市で生産されるかまぼこには、アメリカや中華人民共和国などから輸入した魚のすり身が入っている。</p> <p>(2)店ではたらく人びとの仕事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国からの品物と国旗。(例) チリのレモン、エクアドルのバナナなど。</li> <li>・東京都日本橋の商店街：外国人客の増加と外国語のガイドマップ作り。</li> </ul> <p>4. 市のようにすくらしのうつりかわり→(1)うつりかわる市とくらし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県川越市のくらしづくりの街なみと観光業：外国人観光客の増加。</li> <li>・体の不自由な人や外国人などが住みやすい川越市を作る取り組み。</li> </ul>
	東京書籍	<p>5. 特色ある地いきと人々のくらし→(2)国際交流に取り組むまち・仙台市：外国人住民の現況、国際交流事業の紹介（姉妹都市の紹介と各国の国旗）、交流から共生への努力、国際交流のための4コマCM作り。</p>
	教育出版	<p>6. わたしたちの県のまちづくり→(3)国際交流がさかんなまちづくり：スポーツ（福岡国際マラソン）を通じた国際交流、福岡市の立地（福岡空港や博多湾）を利用した国際交流、福岡市の姉妹都市と各国の国旗、外国人に福岡県を紹介するガイドマップ作り。</p>
	日本文教出版	<p>6. わたしたちの住んでいる県→(3)世界とつながる地いき：岡山県総社市の外国人住民と多文化共生の推進、日本文化を学ぶ外国人、市役所による外国人支援事業、岡山県と外国との交流（外国の友好都市と国旗）、岡山空港を利用した海外との繋がり、岡山県をPRするカルタ作り。</p>

【表3】と【表4】を分析すると、第3・4学年における国際教育の特徴は、次の4点である。1点目は、日本で生産されたり、販売されたりする原料や商品の中には、外国から輸入したことがあることに気付かせている。2点目は、姉妹都市のような国際交流はもとより、外国人住民の増加や共生のための多様な取り組みにも触れ、児童たちが「多文化共生」社会に向けて努めるように促している。3点目は、日本や諸国の国旗について紹介し、その大切さを教えている。4点目は、地域活性化の一環として観光産業を重視している。中でも、外国人観光客の増加に焦点を当て、地方自治体による様々な努力について述べている。

### 第3章 第5学年の「国土」・「産業」と国際教育の記述

本章では、第5学年の社会科学学習指導要領にお

ける国際教育の内容と教科書記述について、その特徴を分析する。

第5学年の目標は、「国土」の地理的環境とそこで営まれている「産業」に関する学習を通して、児童に育成する「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成することである。そして、その内容は、日本の国土と産業に関する内容について、【表2】の「小学校社会科の内容構成」における5項目を学習することである。

その内容構成を見ると、国際教育の内容は、次の3つである。1つ目は、「1. 我が国の国土の様子と国民生活」において「世界の大陸と主な海洋、世界の主な国々」を教えることである。2つ目は、「2. 我が国の農業や水産業における食料生産」の中で「輸入など外国との関わり」について学ぶことである。3つ目は、「3. 我が国の工業生産」で「貿易や運輸」を扱うことである。以下の【表5】と【表

6】は、各々学習指導要領及び解説書における内 要である。

容の整理や、各教科書における国際教育の記述の概

【表 5】第 5 学年における国際教育の内容<sup>21)</sup>

2. 内容：(1)我が国の国土の様子と国民生活	
アの(ア)世界における我が国の国土の位置…領土の範囲などを大まかに理解する。	
・世界の大陸と主な海洋の位置や広がり、と主な国の位置、それらと我が国との位置関係…我が国の領土の範囲などを基に、我が国の国土の概要や特色について理解する。	
イの(ア)世界の大陸と主な海洋、主な国の位置に着目、我が国の国土の様子を捉え…	
・世界の大陸と主な海洋に着目するとは…六大陸と…三海洋の名称と位置や広がりについて調べ…主な国の位置に着目するとは、各大陸における主な国の位置を調べ…。	
(2)我が国の農業や水産業における食料生産	
アの(ア)我が国の食料生産は…国民の食料を確保する重要な役割を果たしている…	
・…食料の中には外国から輸入しているものがあること…	
イの(ア)生産物の種類や分布…輸入など外国との関わりなどに着目して…	
・輸入など外国との関わりに着目するとは、我が国の食料の輸出入品目や相手国、食料自給率などについて調べることである。	
イの(イ)生産の工程、人々の協力関係…輸送…価格や費用などに着目して…	
・輸送に着目するとは…生産物を国内外の消費地へ届ける工夫について調べる…	
(3)我が国の工業生産	
アの(ウ)貿易や運輸は…工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解…	
・原材料や工業製品の輸出入の特色、原材料や工業製品の輸出入や工業製品の出荷には、海上輸送、航空輸送、陸上輸送など日本国内や世界の交通網が使われていることなどを基に、貿易や運輸の役割について理解することである。	
イの(ウ)交通網の広がり、外国との関わりに着目、貿易や運輸の様子を捉え…	
・外国との関わりに着目するとは、輸出入を通じた我が国と諸外国との関わりについて調べることである。…貿易や運輸の様子を捉えることができる…	
3. 内容の取扱い：(1)内容の(1)については	
ア. アの(ア)の「領土の範囲」については、竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国の固有の領土であることに触れること。	
・領土の範囲について指導する際には、竹島や北方領土…尖閣諸島は一度も他の国の領土になったことがない領土という意味で我が国の固有の領土であることなどに触れて説明する…我が国の立場は、歴史的にも国際法上も正当であることを…指導…	
ウ. イの(ア)の「主な国」は、名称も扱うようにし、近隣の諸国を含めて取り上げる。その際、我が国や諸外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養う。	

【表 6】第 5 学年の社会科教科書における国際教育の概要<sup>22)</sup>

出版社	社会科教科書における国際教育の概要
東京書籍	1. わたしたちの国土→(1)世界の中の国土：六大陸や三海洋、世界地図上の諸国と日本、そして国旗、日本の国土や近隣諸国及び領土の問題。
	2. わたしたちの生活と食料生活
	(1)くらしを支える食料生産：外国から来た食料品もたくさんある。
	(3)水産業のさかんな地域：沖合漁業や沿岸漁業が減り、安い魚が輸入される。
	(4)これからの食料生産とわたしたち：日本の食料生産をめぐる課題
	・漁獲量の減少と外国からの輸入、食生活の変化と食料自給率の低下、食の安全・安心への取り組み（検疫所の働き）。
	3. わたしたちの生活と工業生産
	(2)自動車をつくる工場：世界から信頼され、輸出される日本の自動車。
	(3)工業生産を支える輸送と貿易：日本の輸入と輸出の特色。つまり、燃料や原料のほとんどを輸入し、工業製品を世界に輸出。

教育出版	<p>1. 日本の国土とわたしたちのくらし→(1)日本の国土と世界の国々：六大陸と三海洋、諸国と国旗、日本と世界の国々との位置関係、領土問題。</p> <p>2. 未来を支える食料生産：様々な食料が世界の各地から輸入されている。</p> <p>(1)米づくりのさかんな地域：値段の安い外国産の米との競争と不安。</p> <p>(2)水産業のさかんな地域：漁業生産量や消費量の減少、水産物の輸入。</p> <p>(3)これからの食料生産：食料輸入の長所と短所、地産地消、食料の検疫。</p> <p>3. 未来をつくり出す工業生産</p> <p>(2)日本の工業生産と貿易・運輸：世界へ輸出される自動車、主な輸出品と輸入品（天然資源）、貿易を支える港と輸送手段。</p> <p>(3)日本の工業生産の今と未来：増え続ける海外生産、部品の輸入。</p>
日本文教出版	<p>1. 日本の国土と人々のくらし→(1)世界から見た日本：六大陸と三海洋、諸国と国旗、日本の位置と範囲、領土問題。</p> <p>2. わたしたちの食生活を支える食料生産</p> <p>(1)食生活を支える食料の産地：日本や世界で生産されたものを食べる。</p> <p>(3)水産業のさかんな地域：魚を外国へ輸出、養殖業の問題。</p> <p>(4)これからの食料生産：食料自給率の低下、外国産の食料の輸入。</p> <p>3. 工業生産とわたしたちのくらし</p> <p>(2)自動車工業のさかんな地域：輸出される自動車、現地生産。</p> <p>(3)日本の貿易とこれからの工業生産：日本の輸入と輸出の特色、貿易の働き、日本の高い技術とロボットなどの輸出。</p>

【表5】と【表6】を見ると、第5学年における国際教育の特徴は、次の4点である。1点目は、六大陸や三海洋を日本との位置関係の中で捉えさせている。特に領土問題については、日本政府の立場が忠実に反映されている。2点目は、外国からの食料輸入について学ばせ、日本と外国が密接に関わっていることに気付かせている。同時に食料自給率の問題についても深く考えさせている。3点目は、原料やエネルギー資源の輸入と工業製品の輸出という、日本の貿易の特色について教えている。中でも自動車の輸出に関する記述が目立つ。4点目は、第5学年においても国旗に関する教育が重要視されている。

#### 第4章 第6学年の「政治」・「歴史」・「国際理解」と国際教育の記述

本章では、第6学年の社会科学学習指導要領における国際教育の内容と教科書記述について、その特

徴を検討する。

第6学年の目標は、日本の「政治」・「歴史」・「国際理解」について学習し、児童の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育てることである。特に国際理解の目標としては、「我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解する」<sup>23)</sup>とされている。また、第6学年の内容は、【表2】「小学校社会科の内容構成」における3項目を学ぶことである。殊に国際教育の場合、「2. 我が国の歴史上の主な事象」では、「国際社会での重要な役割」と「当時の世界との関わり」を、「3. グローバル化する世界と日本の役割」では、「外国の人々の生活の様子」と「我が国の国際協力」を学ぶことになっている。以下の【表7】と【表8】は、学習指導要領及び解説書の内容整理と、各教科書の国際教育に関する記述の概要である。

【表7】第6学年における国際教育の内容<sup>24)</sup>

<p>2. 内容：(2)我が国の歴史上の主な事象<sup>25)</sup></p> <p>アの(サ)日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦…オリンピック・パラリンピックの開催等を手掛かりに、戦後我が国は…国際社会の中で重要な役割を果たしてきた…</p> <p>(3)グローバル化する世界と日本の役割</p> <p>アの(ア)我が国と経済…等の面で繋がりが深い国の人々の生活は、多様であることを理解…スポーツや文化等を通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合う…</p>
--

<p>ア. (イ)我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。</p>
<p>イ. (ア)外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現すること。</p>
<p>イ. (イ)…課題の解決に向けた連携・協力等に着目し、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現する。</p>
<p>3. 内容の取扱い：(2)内容(2)については…オ.アの(イ)から(サ)までについては、当時の世界との関わりにも目を向け、我が国の歴史を広い視野から捉えられるよう配慮…  <u>・例えば、イの(イ)の「大陸文化の摂取」、イの(エ)の「元との戦い」、イの(カ)の「キリスト教の伝来」、イの(ケ)の「黒船の来航」、イの(コ)の「日清・日露の戦争」、イの(サ)の「日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦」を取り上げる…</u></p>
<p>(3)内容の(3)については          ア. (ア)については、我が国の国旗と国歌の意義を理解し、これを尊重する態度を養うと共に、諸外国の国旗と国歌も同様に尊重する態度を養うよう配慮すること。          イ. アの(ア)については、我が国とつながりが深い国から数か国を取り上げること。その際、児童が1か国を選択して調べるよう配慮すること。          ウ. アの(ア)については、我が国や諸外国の伝統や文化を尊重しようとする態度を養う          エ. イについては、世界の人々と共に生きていくために大切なこと、今後我が国が国際社会において果たすべき役割等を多角的に考えたり選択・判断したりできるよう…。          オ. イの(イ)については…「国際連合の働き」については、ユニセフやユネスコの身近な活動を取り上げること。また、「我が国の国際協力の様子」については、教育、医療、農業などの分野で世界に貢献している事例の中から選択して取り上げること。</p>

【表 8】第 6 学年の社会科教科書における国際教育の概要<sup>26)</sup>

出版社	社会科教科書における国際教育の概要
東京書籍	<p>2. 日本の歴史            (1)縄文のむらから古墳のくにへ：大陸文化の摂取（米作り、鉄器等）、渡来人。            (2)天皇中心の国づくり：遣隋（唐）使、大化の改新（唐の制度を導入）、仏教。            (4)武士の世の中へ：平清盛による宋との貿易、2 度にわたる元との戦い。            (5)今に伝わる室町文化：足利義満による明との貿易、中国の墨絵と雪舟。            (6)戦国の世から天下統一へ：鉄砲・キリスト教の伝来と南蛮貿易、朝鮮侵略等。            (7)江戸幕府と政治の安定：キリスト教の禁止と鎖国、朝鮮と対馬藩、沖縄等。            (8)町人の文化と新しい学問：蘭学の発展（杉田玄白と『解体新書』）等。            (9)明治の国づくりを進めた人々：黒船の来航と開国、岩倉使節団、文明開化等。            (10)世界に歩み出した日本：条約改正、日清・日露戦争、国際的地位の向上等。            (11)長く続いた戦争と人々の暮らし：日中戦争、太平洋戦争、戦争の終わり等。            (12)新しい日本、平和な日本へ：高度経済成長と東京オリンピック、国際連合の役割と国際社会における日本の貢献、日本と近隣諸国（領土・拉致問題）等。</p> <p>3. 世界の中の日本            (1)日本とつながりの深い国々：アメリカ合衆国・大韓民国・中華人民共和国・サウジアラビアの 4 カ国を中心に、文化や日本との関係などが記されている。            (2)世界の未来と日本の役割：国際連合の働き、国際協力、国旗と国歌等。</p>
教育出版	<p>2. 日本の歴史            (1)国づくりへの歩み：大陸文化の摂取（米作り、鉄器等）、渡来人、後漢の金印。            (2)大陸に学んだ国造り：遣唐使、大化の改新（唐の制度を導入）、仏教、鑑真。            (3)武士の政治が始まる：平清盛による宋との貿易、2 度にわたる元との戦い。            (4)室町文化と力をつける人々：足利義満による明との貿易、雪舟と水墨画。            (5)全国統一への動き：鉄砲・キリスト教の伝来と南蛮貿易、朝鮮に大軍を送る、徳川家康の時に朝鮮との交流が再開される。            (6)幕府の政治と人々の暮らし：キリスト教の禁止と鎖国、朝鮮通信使、沖縄等。            (7)新しい文化と学問：蘭学の発展（杉田玄白と『解体新書』）、中国の儒学等。            (8)明治の新しい国づくり：黒船の来航と開国、岩倉使節団、文明開化等。            (9)近代国家を目ざして：条約改正、日清・日露戦争、世界で活躍する日本人等。            (10)戦争と人々の暮らし：日中戦争、太平洋戦争、戦争の終わり等。</p>



	<p>(1)平和で豊かな暮らしを日ざして：東京オリンピック・パラリンピックと高度経済成長、近隣諸国と日本との関係（領土・拉致問題、米軍基地問題）等。</p> <p>3. 世界の中の日本：国旗と国歌。</p> <p>(1)日本とつながりの深い国々：アメリカ・中国・ブラジル（日系人）・サウジアラビアの4カ国を中心に、各国の文化や日本との関係などが記されている。</p> <p>(2)地球規模の課題の解決と国際協力：世界で活躍する日本人、ユニセフ・国際連合の働き、地球環境の問題。</p>
日本 文教 出版	<p>2. 日本のあゆみ</p> <p>(1)大昔のくらしとくにの統一：大陸文化の摂取（米作り）、渡来人。</p> <p>(2)天皇を中心とした政治：遣隋（唐）使、大化の改新（唐の制度を導入）、仏教、シルクロード、鑑真と阿倍仲麻呂。</p> <p>(4)武士による政治のはじまり：平清盛による宋との貿易、元との戦い。</p> <p>(5)今に伝わる室町の文化と人々のくらし：足利義満、明と貿易、雪舟と水墨画。</p> <p>(6)戦国の世の統一：鉄砲・キリスト教の伝来、朝鮮に大軍を送る等。</p> <p>(7)武士による政治の安定：キリスト教の禁止と鎖国、朝鮮通信使、琉球王国等。</p> <p>(8)江戸の社会と文化・学問：蘭学の始まり（杉田玄白と『解体新書』）等。</p> <p>(9)明治の新しい国づくり：黒船の来航と開国、岩倉使節団、文明開化等。</p> <p>(10)国力の充実をめざす日本と国際社会：条約改正、日清・日露戦争、日露戦後の日本と世界の様子、世界で活躍する日本人（北里柴三郎等）。</p> <p>(11)アジア・太平洋に広がる戦争：日中戦争、太平洋戦争、戦争の終わり等。</p> <p>(12)新しい日本へのあゆみ：国際社会の中の日本（オリンピック等）、領土問題。</p> <p>3. 世界のなかの日本とわたしたち</p> <p>(1)つながりの深い国々のくらし：アメリカ合衆国・中華人民共和国・ブラジル連邦共和国の3カ国を中心に、日本との関係等が記されている。国旗と国歌。</p> <p>(2)国際連合と日本の役割：地球規模の諸課題、国連の働きと平和、国際協力等。</p>

第6学年における国際教育の特徴は、次の4つである。1つ目は、歴史と人々の生活に関わる内容において、「当時の世界との関わり」が非常に重視されている。即ち、ほぼ全時代において日本と世界との関係が強調されている。2つ目は、日本と繋がり深い国々を中心に、児童が特定の国を選んで、具体的に調べて学習することができるように工夫されている。3つ目は、国際連合の働きや国際社会における日本の役割を学ばせると共に、地球規模の諸課題について、国際協力の視点に立脚した解決を促している。4つ目は、第6学年において領土問題や国旗に関する教育はもとより、国歌に関する教育が追加されている。

## おわりに

本論文の意義は、小学校社会科における国際教育に当る主な内容を抽出し、その内容構成と教科書記述との関係に着目して、特徴を明らかにしたことである。

まず、国際教育の内容構成とは、次の通りである。第3学年では、地域に見られる生産や販売の仕事において外国との関わり、市の様子の移り変わりにおいて外国人住民の増加に伴う暮らしやすい街づく

りを学習する。第4学年では、国際交流に取り組んでいる地域を紹介し、どのような努力が行われているかを学ぶ。第5学年では、世界の大陸と主な海洋・世界の主な国々について、日本との位置関係に留意して教える。また、日本の農業・水産業・工業では、輸入・貿易・運輸を通じ、外国との関係に気付かせている。第6学年では、歴史学習に関わる内容において、日本と当時の世界との関連を学習させている。一方、グローバル化する世界のなか、外国人の生活の様子、国際連合の働き、国際社会における日本の役割を中心に、教育内容が構成されている。

次に国際教育の特徴を総合的に整理すると、次の5点である。1点目は、新学習指導要領において国際教育の内容が強化された。つまり、新学習指導要領では、「グローバル化」への対応が重点の一つとされ、国際教育の内容も増加した。2点目は、地域社会の「国際化」という実態を積極的に反映させ、外国人観光客の誘致を通じた観光産業の活性化を図ると共に、外国人と共に生きる社会づくりを意識させる記述を大幅に増やした。3点目は、第6学年の歴史学習において、日本と世界の歴史との結び付きがより強くなった。即ち、全時代に亘って日本と世界との繋がりを意識させている。4点目は、エ

エネルギー資源・原料の輸入や工業製品の輸出という、日本の産業・貿易が持つ特色を活かし、生産や販売に関わる身近な食料、自動車の輸出等の事例から、外国との密接な関係を描いている。5点目は、全学年において国旗に関する教育が非常に重要視されている。

今後の課題は、小・中学校の連携という視点から国際教育の内容を研究することである。

(独) 日本学術振興会外国人特別研究員

## 注

1) 日本に在留する外国人数は2002年に約185万人・2012年に約203万人・2022年に約296万人だった。ここで注目されるのは、2000年代に比べ、2010年代に在留外国人が急増したことである。主な要因は、少子高齢化に伴う労働人口の減少によって、外国人労働者の受入が緩和されたためであろう。政府統計総合窓口「第1表国籍(出身地)別在留資格(在留目的)別外国人登録者(2002年)」、2002年;左同「第1表国籍・地域別 在留資格(在留目的)別在留外国人(2012年)」、2012年12月;左同「第1表国籍・地域別在留資格(在留目的)別在留外国人(2022年)」、2022年6月。

また、2003年の訪日外客総数は約520万人である。以来、訪日外客総数は、新型コロナウイルスによるパンデミックが宣言される前年の2019年に凡そ3200万人に達した。即ち、2003年と比較して2019年の訪日外客総数は、約6倍に膨れ上がった。ただ、パンデミックの影響で2020年から2022年までは、訪日外客総数が一時的に激減したが、今後回復するだろう。日本政府観光局(JNTO)「国籍/月別訪日外客数(2003年～2023年)」(2023年2月25日情報取得)。

2) 文部科学省ホームページ([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/026/shiryoku/04102501/001/001.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/026/shiryoku/04102501/001/001.htm)、2023年2月26日情報取得)。以下、文部科学省関連の諸資料は、特に言及しない限り、このホームページから入手したものである。

3) 文部科学省ホームページのリンクである「過去の中央教育審議会(1953～2000)」に接続すると、諮問文や中教審答申などの資料を閲覧することができる。

4) 中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(第一次答申)」、1996年7月19日。

5) 文部科学省「初等中等教育における国際教育推進検討会報告～国際社会を生きる人材を育成するために～」、

2005年8月3日、3頁。

6) 同上、2頁。

7) 日本国際理解教育学会編『国際理解教育【特集世界遺産教育と国際理解教育】』VOL.15、2009年6月;太田満「国際理解のための小学校歴史学習の一考察:外国の歴史教科書を使った授業実践を通して」『国際理解教育』VOL.18、日本国際理解教育学会、2012年6月、90～94頁;金子正人「コロナ禍の多文化共生教育:横浜市立南吉田小学校の実践から」『国際理解教育』VOL.28、日本国際理解教育学会、2022年6月、70～74頁。

8) 小山英恵「新学習指導要領が目指す教育課程:国際理解教育の展望」『国際理解教育』VOL.26、日本国際理解教育学会、2020年6月、61～70頁;嶺井明子「文科行政にみる『国際理解教育』政策の現在:2018年文科省組織再編と学習指導要領改訂から」『国際理解教育』VOL.26、日本国際理解教育学会、2020年6月、34～41頁。

9) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』、2017年7月、10頁。

10) 文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)」、2017年3月;同上;北俊夫・小原友行ほか99名『新しい社会3』東京書籍株式会社、2020年;左同『新しい社会4』、2021年;左同『新しい社会5上』、2020年;左同『新しい社会5下』;左同『新しい社会6政治・国際編』;左同『新しい社会6歴史編』;池野範男・的場正美・安野功ほか123名『小学社会3』日本文教出版株式会社、2020年;左同『小学社会4』、2021年;左同『小学社会5』、2020年;左同『小学社会6』;大石学・小林宏己ほか50名『小学社会3』教育出版株式会社、2020年;左同『小学社会4』、2021年;左同『小学社会5』、2020年;左同『小学社会6』。

これらの資料を引用する際には、次のように表記する。『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』は(『社会編』、頁数)、各種の教科書は、東京書籍(『東』学年、頁数)、日本文教出版(『日』学年、頁数)、教育出版(『教』学年、頁数)で表す。

11) 中央教育審議会、前掲資料、1996年7月19日。

12) 文部科学省ホームページ([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/026/shiryoku/04102501/007/001.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/026/shiryoku/04102501/007/001.htm)、2023年3月4日情報取得)。

13) 『社会編』、5～9頁。

14) 同上、9～10頁。

15) 同上、13;150～151頁。

16) 文部科学省「小学校学習指導要領(平成20年告示)」、2008年3月(国立教育政策研究所教育研究情報データ

ベース、<https://erid.nier.go.jp/guideline.html>、2023年3月6日情報取得)；左同「小学校学習指導要領(平成29年告示)、2017年3月、46；57頁。

17)『社会編』、13～16頁。

18) 本表は「小・中学校社会科における内容の枠組みと対象」という表を参考に、編集・作成したものである。同上、150～151頁。表の左側は、学習指導要領に提示された内容である。右側は各内容と対応している「世界」・「国際関係」に関する事項として、国際教育の内容と見做することができる。

19) 国際教育の内容には編集を加えた。下線の部分は解説書から引用したものである。以後の【表5】・【表7】も同様。文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)」、2017年3月、46～53頁；『社会編』、34～69頁。

20)『東』3、36～65；122～141頁。『東』4、150～157頁。『教』3、44～91；140～157頁。『教』4、200～211頁。『日』3、42～55；66～89；124～155頁。『日』4、180～189頁。

21) 文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)」、2017年3月、53～57頁；『社会編』、73～87頁。

22)『東』5上、6～15；66～75；96～123頁。『東』5下、10～23；36～45頁。『教』5、6～17；59；76～77；92～95；108～117；118～169頁。『日』5、6～17；66～75；90～103；114～129；140～187頁。

23) 文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)」、2017年3月、57頁。

24) 同上、57～62頁；『社会編』、97～134頁。

25) 歴史学習で注目される文言は、次の2つである。一つは、日清・日露戦争で「戦場となった朝鮮半島及び中国において大きな損害を与えたことに触れることが大切」と示されたことである。もう一つは、日中戦争・第二次世界大戦で「我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたことについて触れることが大切」と記されたことである。『社会編』、122～123頁。

26)『東』6政治・国際編、64～116頁。『東』6歴史編、1～160頁。『教』6、64～275頁。『日』6、50～269頁。

